



「視線」で 楽しむ美術

左：藤氏憲承「円窓美人図」江戸時代
右上：佐竹曙山「鍾馗図」江戸時代
右下・背景：森狙仙「蜂猴之図」1806年
全て部分 秋田市立千秋美術館所蔵

令和
7年

11月22日[土] >>

令和
8年

1月18日[日]

休館日：令和7年12月29日[月]～令和8年1月3日[土]

10:00～18:00 (入館は17:30まで)

【観覧料】

一般500円(400円)、大学生300円(240円)

高校生以下無料

※()内は20人以上の団体、障がい者割引および秋田県立美術館相互割引料金
※ぐるりん周遊バスで観覧の場合、一般190円 大学生90円



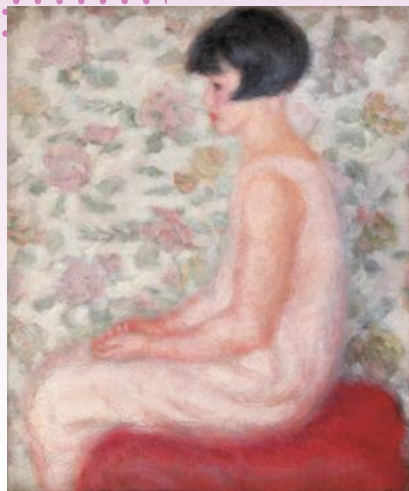
秋田市立千秋美術館

AKITA SENSHU MUSEUM OF ART

「視線」で楽しむ美術

「美術」と「視線」。この2つの単語から何が思い浮かぶでしょうか。作品鑑賞、つまり作品を見るという行為や、語りかけるように私たちに眼差しを送ってくる作品、私たちの視線をさりげなく誘う構図上のテクニックなど、様々な例があるでしょう。本展では、その美術と視線の関係に注目し、「視線」をキーワードとした5つのテーマを通して約40点の所蔵品の魅力をご紹介します。

作者の視線



一木淳「シュミーズ着たる女」1927年

作者にとってこの人はどんな存在？

▶作者になりきって、モデルをどのように見つめ、表現しようとしたのか考えてみましょう。

視線を注ぐ



伊藤博次「鳥雲になる時」1979年

鳥は何羽いる？

▶じっくり作品を観察して初めて得られる発見と楽しみがあります。

視線の先



平福百穂「鉄線花」1931年

CHECK!

▼実はあるものを見えています。画中の視線の先をたどりながら、ストーリーを考えてみましょう。

視線と感情



伊藤若冲「雨龍図」1760年代前半

▼どんな気持ち？
目の向きは人物・生き物の印象に大きな影響を与えます。

導かれる視線

どこに視線が引き付けられるだろう？

▶私たちの視線を誘う構図と色彩の工夫をご紹介します。

信太金昌「透明なる冬」1980年



掲載作品は全て秋田市立千秋美術館所蔵

関連事業

【ギャラリートーク】

11月29日(土)、12月20日(土) 午後2時～

担当：千秋美術館学芸員

会場：千秋美術館2階展示室(事前申込不要、展覧会チケットが必要)

【おしゃべり鑑賞デー】

作品を見て感じたこと、思ったことをお互いに言葉にしながら鑑賞をお楽しみください。作品をより楽しみながらご覧いただけるガイドシートも配布します。

12月13日(土)・14日(日)、1月10日(土)・11日(日)



秋田市立千秋美術館

AKITA SENSU MUSEUM OF ART

〒010-0001 秋田県秋田市中通二丁目3-8(アトリオン)
TEL:018-836-7860 FAX:018-836-7862

アクセス

【電車】JR秋田駅下車 西口徒歩約5分

【飛行機】秋田空港よりリムジンバスで約40分、タクシーで約30分

【車】秋田自動車道 秋田中央ICから車で約15分

※専用駐車場はありません。最寄りの有料駐車場をご利用ください。

※お体の不自由な方は、アトリオンビル地下2階の身体障害者用駐車場をお使い下さい。



公式HP

